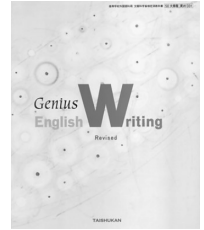


Genius English Writing Revised

自由英作文の指導法



編集部

近年、大学入試問題では発信型が重視されるようになり、その結果、英作文、特に自由英作文の形式で、自分の意見や考えなどを英語で表現することを求められる出題が増えてきました。本稿では、自由英作文の出題形式を概観しながら、*Genius English Writing Revised* を用いたライティングの指導についてご紹介したいと思います。

ここでは、自由作文問題を①「自分の意見を述べる」、②「場面に応じた英文を書く」、③「物語る」の3つに分類して、それぞれについて詳しく見ていきたいと思います。

■「自分の意見を述べる」

「以下のトピックについて、あなたの意見を英語で述べなさい」、「～について賛成・反対のいずれかの立場から、…語程度の英語で述べなさい」などのように、何らかのテーマや情報が与えられ、それについて自分の意見を論理的に述べるという形式で、大学入学後は論理的思考を要求されるからか、自由英作文の出題ではポピュラーだと言えるかもしれません。その一方で、論理的な文章というのは、生徒にとって、日本語で書くのも決してやさしいことではないので、難しい部類の英作文であるとも言えます。実際の大学入試を見ると、例えば、2006年の慶応義塾大学経済学部では、架空のアジアの港町で起きた自然災害への対策案の選択肢として3つの案が提示され、「あなたがどの案を支持するかを英文で論理的に述べなさい。」と問題を課しています。

Genius English Writing Revised では Unit 4

“Give Your Opinion” で議論などの活動を通して、論理的思考力を養う訓練をします。具体的には携帯電話の是非、自然環境、女性の労働環境などが扱われています。

この形式の問題に取り組む場合、生徒にとってより取り組みやすいと思われるのは「賛成か反対」の議論だと思われます。どちらかの立場に立ち、その理由を述べるという訓練を通して、「主張→理由→結論」の流れを生徒の頭の中で定着させます。慣れてきたら、「～についてどう思うか」などの抽象的な題について、具体的に意見を述べるという形式にするのもいいでしょう。

よく、小論文で、「いきなり原稿用紙に書き始めるのではなく、メモを取りましょう」と指導されることがありますが、英語でも同じことが言えます。シートなどを用意すると、生徒も論理的に思考する筋道が見えやすくなります。

■「場面に応じた英文を書く」

実用的な観点から、ある場面を設定して、手紙やメールを英語で書くといった自由英作文もよく見られます。例えば、2006年の広島大学（前期）では、ある新しい携帯型パソコンを、5つの特徴に基づいて友達に勧める手紙を英語で書くという問題があります。

このような形式の出題でポピュラーなのは、「日本のことを知らない外国人に日本のことについて説明する」というパターンです。例えば、2006年九州大学（前期）の「自分の経験に基づいて正月について説明する」という問題、2007年金

沢大学（前期）の『『成人の日』を誤解している外国人に『成人の日』とは何かについて説明したメールを送る』という問題などがありました。

Genius English Writing Revised の Part 2 の Unit 3 “Explain How Things are in Japan” では、「日本について語る」ことをテーマとして、日本を英語で表現する力を養成することが指導目標の1つとされています。特に日本のものを英語で表現する時は、「りんご=apple」のように1語どうしが対応していないことが普通ですので、説明的な表現をすることが求められます。単語を覚えることに生徒の注意を向けすぎないほうがよいでしょう。

例えば、このユニットの Lesson 7 では「こたつ」が紹介されていますが、まず、「こたつを英単語1語でいうと何ですか？」と問い、そこで中学校で学習する“table”という語を生徒から引き出します。すると、まずは“A kotatsu is a table.”という英文を作ることができます。その後で、「ではこたつはどういう特徴がありますか？」とさらに問います。すると「(下が) あたたかい」、「布がかぶさっている」などなど生徒から引き出すことができるでしょう。それらを英語で表現し、先ほどの文に肉付けしていきます。

この流れですと、生徒も一緒に考えることができ、授業への積極性が増します。*Genius English Writing Revised* では“A kotatsu today is a low table with an electric heater underneath, covered with a quilt.”と説明していますが、この英文を和訳し、覚えさせるだけでは応用力も付きませんし、生徒も興味がわかないかもしれません。前述のような活動を通して、英語で物事を表現する楽しさを実感できる授業が可能になります。

■「物語る」

「場面に応じた英文を書く」と重なるところもありますが、「物語る」は自分の体験談などについて英語で表現する形式です。例えば、2007年静

岡大学（前期）の「あなたが会った最も印象的な先生」について英語で書くという出題がそれです。生徒の立場からすると、論理的な英文を書くよりは、やりやすく感じるはずですので、自由英作文を初めて書くような生徒には、このような「物語る」が適していると言えるでしょう。

「物語る」の場合、とにかく表現力が要求されるので、語彙力などを日頃からつけていくことはもちろん重要ですが、文章の流れにメリハリをつけるために、パラグラフを意識することを心がけるように注意を向けさせると、まとまりのない作文になることを防げます。語数の少ない作文では、段落を作るのが難しいかもしれませんが、その場合でも意味の区切れとして、どこからが導入か、どこからが展開かなどの意識を持たせたいものです。

Genius English Writing Revised の Part 2 の Lesson 6 では、休暇旅行のひどい体験が扱われています。似たような経験を生徒に書かせる時、書くネタに困ってペンを止まっている生徒を見かけたら、ある程度は創作をすることも提案していると思います。あまり事実を書くことばかりに注意を向けていては、「英語を書くことを楽しむ」という本来の目的から逸れてしまいます。また、特に本番の試験では、事実を書くことをあまりにも気にしすぎて、何も書けなくなることは避けたいものです。奨励するとまでは言わないまでも、自由英作文では、ある程度の柔軟性を持って書くことを心がけさせることは重要だと言えるかもしれません。

* * *

もう一点、英文を書く上で注意したいのは、同じ英語表現を繰り返し使わないことです。Part 2 の In Function では「計画を述べる」、「怒りを示す」など場面別に英語表現が紹介されています。生徒の作文が単調なスタイルにならないよう、注意を促すとより磨きがかかると思います。